環境省関東環境局主催「まちゴト脱炭素ラボ」セミナー事例発表

「よこらぼ」
～小さく始める官民連携～

（ネイチャーポジティブの理解醸成と高気密・高断熱体験住宅）

埼玉県横瀬町：日本一チャレンジする町

池袋駅から最短約73分の好アクセス

人口約7,300人、面積も小さい自然豊かな山あいの町

外部の力と連携しながらまちづくりを推進

チャレンジをキーワードに多様な主体と「小さく始めてみる」を実行。



①駅から徒歩で行く小さな森「森側-MORIGAWA-」

民間企業との連携による気づきの場・ネイチャーポジティブの理解醸成
人々の暮らしをもっと森側へ近づける共創拠点

駅から徒歩圏内に『未来のモリ』となる“小さな原始林”をつくり、自然を中心とした『モリの関係人口』を構築する

コミュニケーション

フィールド

モリの関係人口

・自然が中心の新たな関わり

・“場”のブランディング

・クリエイティブな情報発信

・企業や人との交流機会創出

・自然の新しい価値の発掘



未来のモリ

・本格的な小さな原生林

・気軽に触れる場のデザイン

・科学的な生物多様性評価

・環境データの蓄積

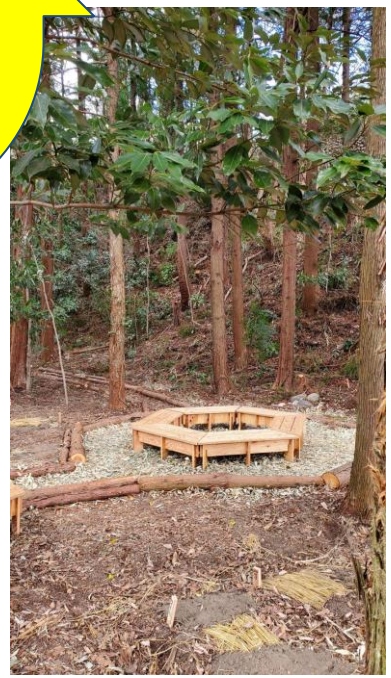
・自然の再生・維持の実験

循環型のエコシステム(生態系)のスタートライン









人が集いやすい場所に
”小さな森”を作り、
町民、来街者、企業など
様々な連携を促進し、自
然と人が重なり合う、気
づきの場、共創の場づく
りが始まる。

②「まるっと横瀬体験住宅」

オフサイト建築協会×埼玉県連携による社会的備蓄兼高気密・高断熱体験施設

省エネルギー型暮らし体験住宅 （通称：まるっと横瀬体験住宅）

施設の目的
①省エネ生活の体験： 省エネ住宅での暮らしを実際に体験
②環境意識の向上： 町民の住まいや環境に対する意識を高める
③移住・二拠点生活の促進： 新たな移住者や二地域居住者を呼び込む
④災害への備え： 災害時には「応急住宅」又は被災地に移動させて「仮設住宅」として活用

構造・面積	木造平屋（在来木軸工法） 延べ床面積61.05㎡
断熱性能	UA値0.34（G2相当）・断熱等級6
耐震性能	耐震等級3
設備（創蓄電）	太陽光7.28kW、蓄電池7.04kWh
設備（家電）	冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、掃除機



省エネルギー型お試し体験住宅整備事業の複合的な目的と関係課

【平時活用】

環境課・健康子育て課

住宅環境改善・町民の健康維持

【目的】

- ヒートショックの軽減
- 町民の健康維持
- 生活コスト(光熱費)の軽減

【平時活用】

連携推進室

移住・二地域居住の促進

【目的】

- 新たな層の滞在体験を可能に
- 町民・関係人口間の交流を通じた、コミュニティの活性化

【平時活用】

振興課

木材を活用した域内産業づくり

【目的】

- 横瀬・秩父産材の活用促進（活樹）
- 移動できる木造住宅
- サプライチェーンの構築（要検討）

【有事活用】

総務課

埼玉県及び(一社)モバイル建築協会との連携（安全・安心な町づくり）

【目的】

- 災害時の体制強化（避難所・防災倉庫管理棟）
- 大規模広域災害時の「社会的備蓄」への参加

③官民連携プラットフォーム「よこらぼ」

日本一チャレンジする町のフィールドを活用！
アイデア募集ではない、自分の「やりたい」をかなえる行政分野横断的サポート！

よこらぼ　検索

全国から挑戦が集まる官民連携プラットフォーム

256件+
累計提案件数

150件+
累計採択プロジェクト

70%超
県外からの提案割合

応募から事業実施まで、最短1カ月強。総務省「令和4年度ふるさとづくり大賞」優秀賞を受賞した官民共創モデル

なぜ小さな横瀬町の「官民連携」にこれだけのチャレンジがあつまるのか？

①ワンストップ窓口：連携推進室が全分野の民間提案を一元受付

②圧倒的なスピード：ネットから誰でも提案可能。審査結果まで最短１か月

③町を挙げてのサポート：必要な分野の担当を集めた横断的プロジェクトチームの支援

「MORIGAWA」も「まるっと横瀬体験住宅」も複数課でサポート

「まちづくり」の課題解決から地域脱炭素へ

小規模自治体の共通課題

財源・専門知識の不足：単独での新規事業化が困難。

人員・体制の限界：環境部局だけでは回らない。

目的化の罠：「脱炭素のための新規施策」は負担大。

横瀬町が実践する解決アプローチ

まちづくり×脱炭素：地域課題解決の手段として選択。

庁内横断の連携：環境部局を超え全庁で事業を推進。

官民連携の共創：民間企業の強みを活かし小さく実証。※アジャイル的

地域主導の脱炭素「まちゴト脱炭素ラボ」も「自分がやりたい」が成功の秘訣？

官民の知恵を掛け合わせ、
自然と暮らしが調和するレジリエントな町へ

この話を聞いて、やらない理由を考えるより、まずは横瀬町へ

ご清聴ありがとうございました